

事業名 CD	0104010201	健康教育事業	
細分化した事業名	健康教育		
事業担当課室 CD	200400	保健課	整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり	
	中項目	健康な暮らしを守る保健・医療の充実	
	小項目	健康づくりの推進	
関連する個別計画等	健康増進計画	根拠条例等	健康増進法
関連する事業	健康相談		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	生活習慣病の予防及び介護を要する状態となることの予防その他健康に関する事項について、正しい知識の普及を図るとともに、適切な指導や支援を行うことにより「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高め、健康の保持・増進に資する。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	65歳未満の者、健診結果より保健指導が必要とされる者(要指導者・軽度異常者・若年肥満者等)、またはその家族等。
これまでの改善経過	～20年3月 老人保健法に基づく健康教育事業として各種健康教室を実施 平成20年4月より、健康増進法に基づく健康教育事業となる。 特定保健指導事業(内臓脂肪症候群:メタボリックシンドロームに着目した生活習慣の改善に重点を置いた指導)の対象者以外の生活習慣病予防・改善を目的とした健康教室を開催している。
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 ■補助金 □その他( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康アップ教室の実施</li> <li>陸上ウォーキング教室の実施</li> <li>水中運動教室への助成</li> <li>総合健診結果報告会開催時の健康教育</li> <li>要請があった団体に対するの教室開催(出前塾)</li> <li>健康カレンダーの配布(全戸)</li> </ul>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	自分の健康を保つための健康行動がとれる 教室へ参加することにより、正しい生活習慣のあり方を身につけることができる 健康カレンダーを全戸配布することにより健康に関する情報を市民に周知することができる

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	2,133	2,928	3,035
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金	510	504	504
	市債			
	その他			
	一般財源	1,623	2,424	2,531
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.37	0.37	0.26
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	2,556	2,525	1,747
D	総事業費(A+C) (千円)	4,689	5,453	4,782
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	149 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。  
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。  
 注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	健康アップ教室	開催回数(回)	64	36	43
	陸上ウォーキング教室	開催回数(回)	6	6	12
	病態別健康教室	開催回数(回)	16	26	14
	結果報告会	開催回数(回)	96	34	20
	水中運動教室	開催回数(回)		245	211
成果指標	健康アップ教室	参加者数(人)	322	350	267
	陸上ウォーキング教室	参加者数(人)	151	106	120
	病態別健康教室	参加者数(人)	768	967	520
	結果報告会	参加者数(人)	1,835	576	93
	水中運動教室参加者数	参加者数(人)		2,664	2,302
効率指標	教室1回あたりのコスト	総事業費/開催回数(円) (4,782千円/300回)	25,764円	15,714円	15,940円
	参加者1人あたりのコスト	総事業費/参加者数(円) (4,782千円/3,302人)	1,524円	1,169円	1,448円

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A妥当である <input checked="" type="checkbox"/> Bほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C妥当でない 市民のニーズに合わせ、各地区での健康教室の開催やセンターにおいての支援がなされ、健康づくりの場を提供している		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A上がっている <input checked="" type="checkbox"/> Bほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C上がっていない 多くの市民に健康に関する情報提供や運動習慣・正しい食生活の知識が普及されている		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A効率的である <input checked="" type="checkbox"/> Bほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C効率的でない 健康についてまた生活習慣病予防についてわかりやすく新しい情報を市民に伝えるための資料等も必要でありコスト的には効率的である		
総合評価	<input type="checkbox"/> A期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 生活習慣を改善し、市民がより質の高い生活が送れるよう支援する	(2) 24年度 市民へ意識付けがされ、実行に移せるような内容・回数・方法等で健康教室を開催していく。	(3) 23年度 関係団体・地域組織と協力して健康教室を開催する。市民ひとりひとりが、健康づくりに意識をもち、自分にあった活動を始められるよう支援する。
	22年度の改善計画 メタボリックシンドロームを減らすための生活習慣の見直し・改善が図れる。		
22年度の改善結果 多くの市民が教室に参加することで正しい生活習慣のあり方を身につけることができた。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 関係団体・地域組織と協働し、健康教室を開催していく。			
課長所見	各事業に無関心で参加していない市民をどのようにして巻き込んで参加してもらうような工夫が必要		